

## 第2回 第3次玉城町男女共同参画計画策定委員会 議事録

■日時：令和4年1月14日（金）午後2時00分～午後3時45分

■場所：玉城町役場3階第1委員会室

### ■出席者

委員：中西弘美委員（オンライン）、奥山善子委員、池山敦委員、木下昌彦委員、喜多富美子委員、西村幸泰委員

事務局：中川泰成（総務政策課地域づくり推進室長）、村井摩耶（総務政策課）、  
阪口雄太（総務政策課）、  
小林智（ジャパンインターナショナル総合研究所）（オンライン）

■欠席者 なし

### ■配布資料

資料1：第3次玉城町男女共同参画計画（案）【事前配布】

資料2：キャッチフレーズ案一覧

資料3：今後の予定・第3回策定委員会日程について

### ■次第

- 1 開会
- 2 第3次玉城町男女共同参画計画（案）について
- 3 キャッチフレーズの選定について
- 4 その他

【この会議録は要点記であり、すべて発言が掲載されているものではありません】

### ■議事録

- 1 開会
- 2 第3次玉城町男女共同参画計画（案）について  
事務局から資料1 第1章から3章について説明

委員	・評価検証項目がたくさんある中で、能動的に動くもの、受動的なものと両方ある。能動的に動くもの、例えば審議会の委員等は数値上昇しており、一定の評価はできる。全体意識は上昇。やれることと、社会にゆだねていることはあると思う。
委員	・基本目標1の学校の中で男女の平等であると答える人の割合の評価がCであることが気になる
委員	・給食当番、清掃等を皆が一緒にすることが平等であると思うが、平等でないというのはそれが歪んでいるということか。

事務局	・平等でない状態がなぜ学校で生まれているのかは、疑問に思っている。職員の方で差があると感じることはあるかもしれないが、子どもたちの環境に不平等はそれほど感じていない。
委員	・この項目は親の目線と子どもの目線では全然違う意味になる。この設問で何が見えてくるのか。
事務局	・設問意図としては、家庭や職場等と比較してどうかをみるために聞いているもの。ほかの自治体調査でも似た傾向の結果であるという印象。
委員	・そうなると、職場、地域と比較すると、学校は50%で相対的にみて平等と判断してよいのか。
事務局	・そう判断していただいて構わないと思われる。
委員	・社会全体、家庭、学校等のそれぞれの状況で違うということで理解したが、いずれの項目も前回結果より下がっており、上げていく必要がある。

#### 事務局から資料1 第4章 基本目標1について説明

委員	・目標指標について、社会全体で男女が平等と答える人の割合を25%は現実的な目標なのか。前回目標が25%で達成できず、再度というのもわかるが、一度立ち止まって考えるべきでは。また、女性委員の割合など、女性をというアプローチがすでにバイアスがかかっていると感じる。書き方の検討をいただきたい。
事務局	・上位機関の目標値も鑑み、検討したい。
委員	・女性の応援とあるが、会社で女性にアンケートとると、皆がキャリアアップを目指しているわけではない。何をもって平等とみるのか。女性で社会進出したいという方がそれほど多くない印象で、キャリアアップといってもギャップもあるのでは。
事務局	・数字上で50:50ではなく、男女関係なくそれぞれの個人の考えで選ぶことができる環境づくりを進めていくことが重要と考える。
委員	・性別による特性はあって、男女差、個人差が出てきて当たり前と考える。男女関係なくキャリアアップしたいという人が環境によって阻害されないことが大事かと思う。

#### 事務局から資料1 第4章 基本目標2について説明

委員	・担当課の記載はこの内容でよいのか。それぞれの施策を進めていくうえで関係してくる課はもっとあるのではないか。 ・職場向けの施策については、役場だけではどうにもならないことが多いと思う。
事務局	・全事業が同じ思いで取り組むものであり、その中で、代表という意味で担当課を記載している。すべて書き出すと全課になるため、一旦このようにした。

委員	・長年勤務されていない方、親の年金で生活している方に遭遇する機会は少ない。その方々への支援は、玉城町としてはないように思う。就労という光を与え、一般就労は難しいが、障がい者就労とは違うという方への支援は急務でありお願いしたい。
事務局	・企業への業務切り出しという取り組みも行っている。現在、役場では電話対応 1 次受付という取り組みを試行中。小さく業務を切り出すことで、色々な方が仕事を手にしてもらおうという事業に取り組んでいる。企業からも切り出してもらおうように働きかけを進めている。引き続き、進めたい。

事務局から資料 1 第 4 章 基本目標 3 について説明

委員	・自分が住んでいる地域は男性役員ばかりである。地域活動の女性役員を促す仕組みとあるが、何かあるのか。
事務局	・玉城町では女性の区長が増えてきている現状がある。区長会の時にも、ご夫婦で参加された区もあった。自治会でも女性の役員の意見を積極的に取り入れていただくことをそういった場で啓発したい。皇學館大学池山先生にもお世話になっているコミュニティ事業の方でも、育成の場も設けたいと思っている。
委員	・区長会にご夫婦で参加されたという話はとても良い話で、町から区長会の参加を呼び掛けていただくことも良いのかも。女性もそういう場にでると意見も言いやすくなったりする。意見をまず聞くことが大事と思う。
事務局	・コロナ禍で最小人員となるので、現状では案内できないが、一段落したら夫婦で参加可能と呼び掛けてもよいかもかもしれない。
委員	・区長に限らず、住民の皆さんが地域の何らかの役をきっかけに前進できると良い。
委員	・DV関連の施策で、税務住民課とあるが関わりを知りたい。
事務局	・戸籍情報等を開示してはいけないという通知を税務住民課で処理するため。
委員	・全体を通して委員の皆さんから意見賜りたい。
委員	・防災に関する取り組みは誰もが共通課題の認識を持たれているので、そういう部分を切り口に、男女共同参画、協力という流れになっていければと。役場とつながりがあるのはどうしても区長や役員のため、住民の方々とのつながりも工夫されるともっと変わっていくかも。
委員	・いろんな講演会等するのは良いことだが、人に集まってもらわなければ意味がない。住民の方に知っていただき、手を取って進めていく、皆一緒にというのを啓発すべき。だれもが参加しやすいことを企画してほしい。
委員	・その人の特性、個性を生かした場で活躍できるのが理想で、そのハードルが少しでも下がればと思う。以前、伊勢であった同一性障害の方

	の講演が印象的で、またそういう機会をお願いしたい。
委員	・男女共同参画は企業でも積極的に行われている。企業では環境を整えたり、意欲のある方への支援を行うなど、自治体、企業が協力して推進してもらいたい。
委員	・最近非常にSDGsが広く知られている印象。企業でも認識は広がってきている。企業としても何をしてよいかわからないところもある。ジェンダー平等は役場も企業もお互いにプラスになるので、ぜひ進めてもらいたい。
委員	・男女共同参画計画というが、本質的には誰もが望み通りの生活が送れること、性別、人種、年齢等で邪魔されない。その中でも性別で邪魔されないことが重要。本当に目指すべきところは何かをしっかりと持って、計画を仕上げてもらいたい。

### 3 キャッチフレーズの選定について

事務局から、各委員から出されたキャッチフレーズ案を紹介

委員	・ここで決めるのは難しいと思うので、皆さんが良いと思うフレーズを選んで事務局へ提出し、その中から、事務局で設定してもらおうのはどうか。3～5つ選定してもらい、事務局にゆだねてよいか。
委員	全員賛成

### 4 その他

以上